

『ローマ人の物語 1—ローマは一日にして成らず』(上・下)

塩野七生 著 新潮文庫 上巻420円/下巻460円(税込)

“手段の目的化”起こしがちな現代人への警鐘

本書の著者、塩野七生を知ったのは全くの偶然であった。それは大学2年の頃であったと思う。当時、あり余る時間を持って余し、近所の書店で適当に文庫本などを買っていたが、その中の1冊に塩野七生の「サイレント・マイノリティ」というエッセイがあった。当時の読後感さはほどのものではなかったが、塩野七生の著書の多くが中世イタリアルネッサンスを扱った歴史物ということで徐々に読み始め、今では相当な塩野ファンとなってしまった。

ところで私は、5冊目くらいまでは塩野七生を男性と思い込んでいたが、実は女性である。しかし、その伶俐な分析、明確な文体は、読む者に心地よい緊張感を与えるものであり、彼女を男性と思い込む読者はどうも少なくないらしい。

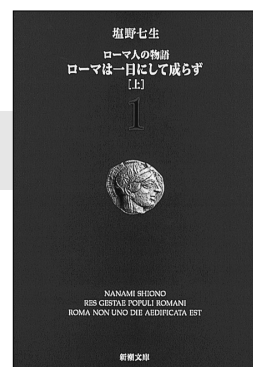
本書は、古代ローマ史を全15巻で書き上げようとする最初の1巻目であり、本来はハードカバーの書物であるが、最近、文庫化され始めたものである。

古代ローマは、人類史上唯一、人種・民族・宗教を超えた

普遍国家を実現した人々であると考えている。その古代ローマの建国からイタリア半島統一までを扱う本書にも、物事を考える上での様々なヒントが散りばめられていると思う。直接民主政によって評価される古代アテネだが、その民主政が最もよく機能していた時代は、実はペリクレスという1人の英明な指導者によって率いられた時代であったという事実。古代ローマが長期にわたりその覇権を維持できたのは、単に軍事力によるものではなく、敗者をも同化するという、その寛容な性向にあったとする考察。

我々現代人は、古代ローマから二千年が経ちながら、宗教的に非寛容になり、統治能力よりも統治理念に拘泥し、他民族や他人種を排斥し続けている。本書は、ややもすると手段の目的化を起こしがちな我々に、目を曇らせることなく事実を観察し考えることの必要性を思い出させてくれる。

(会員 大石 和也)



日弁連主催

広報デザインコンテストで優秀賞

「在日コリアンの子どもたちに対する嫌がらせ等防止ポスター」

去る6月21日に日弁連主催の「全国広報担当者連絡協議会」が開催された。その際に、各弁護士会で発行されているチラシやポスターのデザインを競う第1回デザインコンテストが実施された。全国の各弁護士会から46点の応募があり、東弁が応募したポスターが、優秀賞に選ばれた。(ポスターの詳細については、LIBRA2004年1月号38頁参照)

『トロイ』

2004年／アメリカ／ウォルフガング・ペーターゼン監督作品

タイムマシンで古代ギリシャへ

ホメロス原作の古代戦争絵巻、紀元前12世紀に起こったと言われる伝説のトロイ戦争を描く。トロイの王子ヘクトル（エリック・バナ）とスパルタ王メネラオスが戦争の終結を祝った夜、ヘクトルの弟パリス（オーランド・ブルーム）はスパルタ王妃ヘレン（ダイアン・クルーガー）を連れ帰る。激昂したメネラオスと兄アガメムノンは4万のギリシャ軍を率いてトロイを攻める。トロイは難攻不落の城塞を誇っていたが、ギリシャ最強の戦士アキレス（ブラッド・ピット）がめざましい活躍を見せ、ヘクトルと対決、そして木馬を使って城壁の中へ…。

子供の頃から歴史が大好きで、タイムマシンができれば真っ先に行ってみたいと思っていたのがこの時代。ヘレンはどんなに美人だったのだろう、城塞、軍船、木馬や戦士達の戦いをこの目で見てみたい——ウソだとわかっていても、そんな好奇心を満足させてくれる映画だ。自分が思い描いて

いたものとの一致とかギャップとかを確認していくのも楽しみ。

城壁や軍船はさすが、木馬がちょっとショボイかな。アキレスは格好良い、パリスは情けなくてみっともないけど美しい、トロイ王（ピーター・オトゥール）が渋くて秀逸。ただヘレンは傾国、絶世の美女と言えるか、やや疑問。

その中でちょっと気に入ったセリフ「パリスは約束を破った」。字幕では「約束」となっていたが、promise, agreement, contractではなくて、pact パクト(?)と聞こえた。カッコいい！ ラテン語だ！ Pacta sunt servanda. 「約束は守るべし」だ！ 古代ギリシャの古風な雰囲気セリフの中でも出したかったのかもしれない。

壮大なスペクタクル巨編を、是非劇場の大スクリーンでお楽しみ下さい。

(会員 辻 千晶)

図書館だより | 合同図書館内の危険情報

回転ドアによる事故などが報じられたのを受けて、図書館内の設備について危険がないか、調べてみた。

●電動書架

OPEN ボタンを押すと、通路が開いてロックされる。書架間に人が入ったことをセンサーが感知しても、ロックがかかる。別の通路を開けるためにはRESET ボタンでロックを解除する必要があるが、中に人がいないことを確認してから押してほしい。万が一、人がいるのに書架が動いた場合も、安全板が足先または腹部にあたればブザーが鳴って移動は中止される。

●BDS（無断帯出防止退館システム）

常時電磁波がでているが、メーカーによる測定の結果、健康上影響があるほどのヘルツではないとのこと。ただし、ペースメーカー装着や妊娠中の方など、電磁波の影響が心配される方には、別の出口をご案内している。

●入館システム

挿入したカードを抜くとゲートが開くが、約5秒で自動

的に閉まる。オープン時間を長くすると、混雑時に入館者が並んでしまうので、この時間に設定している。カードを抜いてすぐに入らなかったため、鞆がはさまれてしまった例がある。

●固定書架

固定書架には、阪神大震災級の地震が起きても倒れないようにアンカーを埋め込んである。ただし、その場合も図書は落下するので、地震の際はすばやく書架から離れるようお願いしたい。

●内階段

8階からの内階段を降りる時につまずく事故があった。靴の細いヒールの先が階段の滑り止めに引っかかったのだと思われる。調査の結果、会館内にある階段の滑り止めはほとんど同じ仕様で、滑り止めがないと危険なので取り外すことはできないとのこと。重大な事故につながりかねないので、転ばないように、気をつけて降りるようお願いしている。

(合同図書館事務長 梅原 成子)